

ア) 安全・安心な社会の実現

1. 激甚化・多様化する自然災害の防止、軽減、早期復旧に関する研究

(5) 防災・災害情報の効率的活用技術に関する研究

研究期間：平成23～27年度
プロジェクトリーダー：水災害研究グループ長

【研究の概要】

大規模な災害のうちでも、突発的に大きな外力が作用し発災する地震と異なり、水災害は時間の推移と共に危険度が変化し発災の予見が可能です(図-1)。このような災害では、事態の進展に則した情報を提供することにより、資産・人命被害を最小限にとどめることが十分に可能です。

本研究は、災害・被害の状況をリアルタイムに把握する技術と、情報収集技術を用いて、諸機関がすでに持つ関係情報との融合を図り、事象の変化に適切に対応できる防災・災害情報の効率的活用技術の開発を目的とし以下の3項目で構成されています。

- ① 災担当者が自律的に最適な防災・災害情報を活用できる環境構築を支援するツールの開発
- ② 災害危険度情報等の効率的な作成技術の開発
- ③ 衛星などによる広域災害の範囲・被害規模把握技術の開発

これらにより、リアルタイムの計測情報などを活用した(図-3)、被災及び危険度の推定手法を確立し、自治体の防災担当者などが必要な情報を、様々な機関が開発・提供する災害情報システムから容易に収集可能にし、緊急時の水防活動や警戒避難の判断を支援することで災害影響の極小化を目指します。

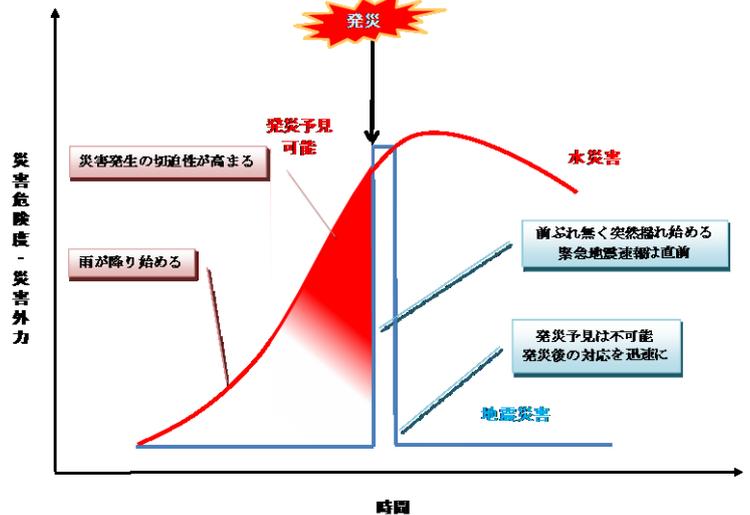


図-1 時間の経過とともに増大する災害危険度のイメージ図



図-2 防災担当者が災害時に時点・事象・目的に応じた最適な情報を利用するイメージ

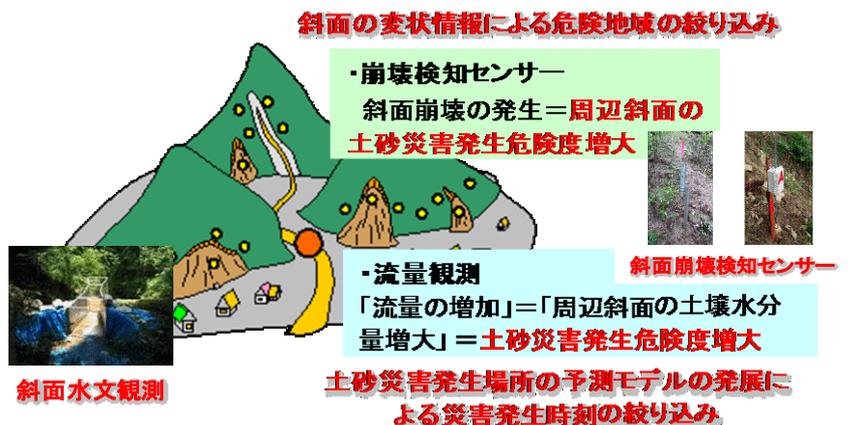


図-3 リアルタイム計測情報による災害危険度情報作成方法のイメージ